

平成 27 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業

大多喜中学校における銃剣道の模擬授業

平成 27 年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業は 12 月 4～6 日の 3 日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで行われた。本研究事業は平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、銃剣道の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価などについて研究協議するものである。今回は大多喜町立大多喜中学校の 1・2 年生 16 名（男子 9 名・女子 7 名）の協力を得て、同校剣道場にて模擬授業を行った。

■ 1 日目（4 日）

14 時より開講式が行われ、はじめに鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立った。

「先月、全国銃剣道指導者研修会を開催し、大変大きな成果があげることができました。今まで行ってきた研究成果を地域指導者に体験していただき、先生方からも好評をいただきました。本研究事業の狙いは、来年 1 月から中学校で銃剣道授業が実現する運びになりまして、そこでの指導内容を研究していただくのが一つ。また、『日本武道協議会設立 40 周年記念事業中学校武道必修化指導書（DVD3 巻付）』の企画を検討することが一つです」

続いて三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶を述べた。

「日本武道館では中学校保健体育科において武道が必修となってから丸 3 年が経ち、全国の中学校にアンケート調査を行いましたので、その結果を報告いたします。まず、武道の実施率は柔道が 6 割強、剣道が 3 割強、相撲他が 1 割となっており、大きな変動はありません。実施時間数は平均 9.8 時間で若干の増となっております。また、保健体育科教員だけで授業を行う傾向が増えており、複数種目を実施している学校は減っています。この結果から保健体育科教員が一人で武道授業を 10 時間実施する体制が整ってきているといえます。来年 1 月に初めて銃剣道授業が実施されることは喜ばしいことです。これからが本番ということで、銃剣道の素晴らしい授業を実施できるようにしていただきたいと思います」

次に研究者の紹介があり、開講式に引き続いて、指導法検討協議に入った。翌日に大多喜中学校で行われる模擬授業に向け、研究者の役割分担や指導内容の確認が行われた。さらに研究者を生徒役として、授業の導入部分について模擬授業も行われた。

■ 2 日目 (5 日)

場所を大多喜中学校剣道場に移して、中学生の協力を得て、銃剣道の模擬授業を行った。午前は清水研究者が T1、丹下研究者が T2 となって授業が展開された。準備運動の後、礼法を含めた銃剣道の基本動作を指導。続いて足さばきを行い、一人一本ずつ木銃を持ち、持ち方や構え方、足さばきを教えた。次に生徒を 3 班に分け、班ごとに練習し、木銃を構えたままの足さばきの発表をさせた。続いて直突を指導し、新聞紙突き、ボール突きを行った。さらに直突に足の動きをつけて、形の一本目、反対交差からの直突を指導して、形の二本目をそれぞれ指導した。形の指導では突いたら抜くことを強調して指導が行われた。

午後は T1 と T2 が入れ替わって授業を行った。準備運動、足さばきの復習を行った後、清水、丹下両研究者が形の一本目、二本目を通して披露すると、生徒からは自然と拍手が湧き起こった。有効打突の条件や残心について説明し、まずは形の一本目を繰り返し練習した。最後に 4 名ほどの班ごとに発表し、それを見ていた他の生徒からは礼が綺麗だった、突きが真っ直ぐだったなどの感想が聞かれた。続いて形の二本目を指導して、繰り返し練習させ、最後に形の一本目、二本目を通して発表する試合を行った。試合は 1 チーム 4 人で 4 チームを作り、演武は 2 組ずつ、審判は研究者 3 人が行い、判定した。生徒にはあらかじめ見るポイントが礼法、気剣体、声、技、姿勢であることを伝えた。試合後、試合で組んだペアになって直突を三本ずつ行い、模擬授業を終了した。

研修センターに戻り、模擬授業の振り返りを含めて研究協議が行われた。残心や開き足の伝え方、構え方を見る際に左手の高さの許容範囲や膝の緩め具合など指導の細かいポイントが討議された。

■ 3 日目 (6 日)

清水研究者が今年度、所属中学校で行う予定の銃剣道授業の日程や指導案の細かい部分について、詰めの研究協議が行われ、本事業のすべての日程が終了した。

【銃剣道授業を受けた生徒のアンケート】(抜粋)

1 授業を受けた感想

- ・知らないスポーツだったけど、とてもなじみやすく、楽しかった。
- ・銃剣道の楽しさと難しさがわかった。
- ・来年もやってみたい。
- ・同じ武道でも剣道と決まりや動き方が全然違って驚いた。

2 面白かったこと

- ・いろいろなことをゲーム感覚でやったので楽しかったし、覚えられた。
- ・試合が面白かった。
- ・新聞紙突きとボール突きが楽しかった。
- ・形が面白かった。
- ・相手とミーティングをして本番で合わせること。

3 苦しかったこと、つらかったこと

- ・基本を覚えるのが難しかった。
- ・木銃が重くてずっと持っているの辛かった。
- ・八呼称を覚えられなかった。

4 印象に残ったこと

- ・迫力があってカッコいいスポーツだと思った。
- ・残心が一番印象に残った。

5 銃剣道をまたやってみたいと思うか

- | | |
|-----------------|-----|
| ①とてもやってみたい | 9 名 |
| ②やってみたい | 7 名 |
| ③普通 | 0 名 |
| ④どちらかといえばやりたくない | 0 名 |
| ⑤やりたくない | 0 名 |